

# SARSの影響について

～ 製造業の4社に1社がSARSの影響を指摘～

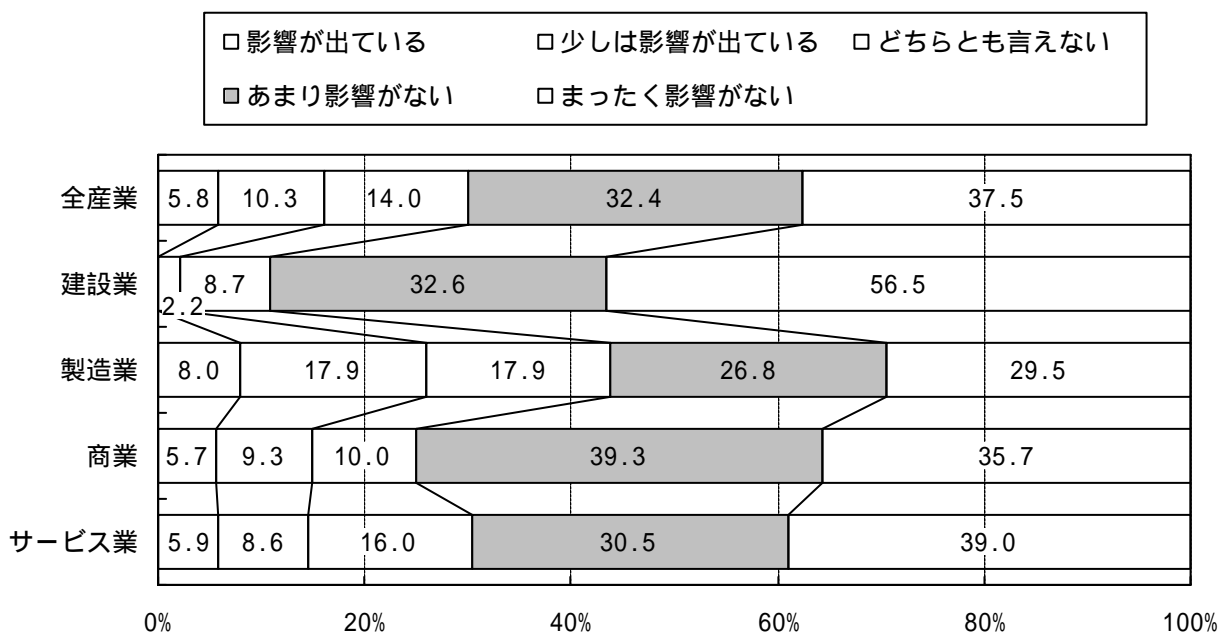
今年3月よりアジア圏を中心に猛威を振るったSARS（重症急性呼吸症候群）について、世界保健機構（WHO）は7月5日、全世界でSARSの感染が終息したと宣言し、感染地域リストに最後まで残っていた台湾を同日付で除外した（平成15年7月6日 日本経済新聞より）。それに伴い、日本企業は制限してきた出張や赴任を全面的に解禁するなど停滞していた中国ビジネスを相次いで再開していると報じられている。

終息宣言が出されたSARSであるが、大阪市信用金庫が海外関連中小企業に対して行ったアンケート調査（平成15年5月調査）によれば、48.6%の企業が何らかの影響を受けているとしており、様々な分野での企業活動への影響が報告されている。また、SARSの実態ははまだ不明な点が多く、今後のリスク管理のあり方が重要視されている。そこで、県内企業へのSARSの影響について調査・分析を行った。

## SARSの影響

全産業において、SARSの「影響が出ている」とした企業は5.8%、また「少しは影響が出ている」とする企業も10.3%あり、16.1%の企業が何らかの形でSARSの影響を受けていることがわかった。逆に、「あまり影響がない」、「まったく影響がない」とする企業はそれぞれ32.4%、37.5%であり、影響がないという企業は全体の7割を占めた。また、「どちらとも言えない」とする企業は14.0%であった。

業種別にみると、製造業では影響を受けている（「影響が出ている」または「少しは影響が出ている」）とした企業が25.9%となり、他業種に比べ影響の度合いが高いことがわかった。また、商業では15.0%、サービス業では14.5%の企業が影響を受けているが、建設業では影響を受けている企業は2.2%に留まり、ほとんど影響がなかったものと考えられる。



## 影響の内容

SARSの影響を受けている（「影響が出ている」または「少しは影響が出ている」）とした企業に、どのような影響を受けているのかを聞いてみた。全産業において、「出張自粛で商談や仕事が進まない」とした企業が44.0%と最も多く、次いで「輸入に支障をきたしている」(17.3%)、「輸出に支障をきたしている」(10.7%)、「現地工場の稼働が停滞している」(8.0%)の順となっている。一方、マイナスの影響だけではなく、「間接的に売上高が増加した」とするプラスの影響を受けている企業も5.3%あることがわかった。

業種別にみると、製造業の約7割が「出張自粛で商談や仕事が進まない」としており、他産業に比べ、高い割合となっている。また、輸出入に影響をきたしたり、海外進出計画の見直しを迫られている企業も他産業に比べ高い割合となっている。商業、サービス業では、その他が最も多く、その内容の大半は「海外旅行者の大幅減少」や「外国人観光客の減少」といった回答であった。

【複数回答】(%)

	建設業	製造業	商業	サービス業	全産業
出張自粛で商談や仕事が進まない	0.0	69.0	25.0	30.8	44.0
輸入に支障をきたしている	0.0	17.2	20.0	15.4	17.3
輸出に支障をきたしている	0.0	17.2	10.0	3.8	10.7
現地工場の稼働が停滞している	0.0	10.3	10.0	3.8	8.0
間接的に売上が増加した	0.0	3.4	5.0	7.7	5.3
海外進出計画の見直しを迫られている	0.0	13.8	0.0	0.0	5.3
現地での売上が減少した	0.0	6.9	0.0	3.8	4.0
国内での現地製品の売上が減少した	0.0	3.4	5.0	0.0	2.7
その他	0.0	10.3	40.0	46.2	30.7